

豊後高田市の庚申調査

岩野勝

昨年十二月別府大学で国東半島庚申研究会が結成され、研究協力員は各市町村内の庚申塔所在地と美術的価値、庚申講について調査することになった。豊後高田市では河内公民館安東宗一郎主事、西都甲公民館佐藤定主事、田染出身大田中学校河野了教諭の御協力で調査を行った。その中間報告として記すこととした。

庚申塔一覽表

番号	名称	所在地	年号	刻像・その他
1	光嚴寺庚申塔	高田・鍛冶屋町	明和五年	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。
2	水取 一	高田・水取	文化十四年	日・月。一面六臂青面金剛。シヨケラ。一邪鬼。二童子。二鶏。三猿。 水取。氏子中。
3	正福寺 二	来繩・横峯		日・月。一面二臂青面金剛。二童子。二鶏。(風化)
4	貴船社 "	来繩・徳間	享保十三年	日・月。一面四臂青面金剛。一猿。一鶏。
5	泰雲寺庚申塔 "	来繩・寺ノ前	明和元年	日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。二猿。
6				日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。三猿。二鶏。

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	
薬音寺	下紺屋	貴船神社	内原	屋敷	田ノ平	稻荷社	権現社	ミツケ	善幸寺	貴布祢神社	本屋敷	上ノ平	祇園社	上町	北野神社	山神社	不動堂	二	
森・薬音寺	森・下紺屋	森・宮ノ本	森・内原	森・屋敷	鼎・田ノ平	鼎・大辻	鼎・岩ノ下	美和・ミツケ	美和・西野内	美和・宮ノ前	美和・本屋敷	美和・上ノ平	玉津・坂ノ上	玉津・上	玉津・上	玉津・横町	玉津・磯		
寛政三年	宝曆七年	寛保二年	天明二年	嘉永四年	享保九年	元禄十四年	文政七年	寛政二年											
日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。一鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。一邪鬼。二鶏。三猿。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二蛇。二鶏。一猿。	日・月。一面六臂青面金剛。二猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。一鶏。二猿。氏子中。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。三猿。二鶏。	日・月。一面八臂青面金剛。一邪鬼。三猿。二鶏。蓮弁。	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。二猿(幣持)。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。四夜叉。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。二夜叉。一鶏。二猿。	猿田彦大神(文・陰)	猿田彦大神(文・陰)	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。二童子。二猿(幣持)。一鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。シヨケラ。二邪鬼。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。一邪鬼。二童子。二夜叉。一鶏。	

26	下ノ山庚甲塔	佐野・下ノ山	元文 五年	日・月。	一面四臂青面金剛。二童子。二猿。二鷄。	彦太夫 他六名
27	西川	佐野・西川	明和 四年	日・月。	一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	
28	上野	佐野・上野	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。		
29	堀城	佐野・堀城	庚申尊天(文・陰)			
30	勘田原	佐野・勘田原	安永 八年	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	
31	城山	佐野・城山	文政 二年	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。一猿。一鷄。	
32	ナギノ	小田原・ナギノ	明治卅四年	猿田猿大神(文・陰)		
33	立道	小田原・立道	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。二鷄。三猿。		
34	ヤ子ノ迫	〃 〃 〃	寛政 六年	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	
35	向屋敷	小田原・向屋敷	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。		
36	寺山	小田原・寺山	猿田彦大神(文・陰)			
37	立石	加礼川・鶴立石	元禄十四年	日・月。	一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	彦太夫 他六名
38	〃	〃	文政 六年	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	
39	〃	〃	〃	日・月。	一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	
40	大師堂	加礼川・鶴	〃	日・月。	一面四臂青面金剛。一蛇。二童子。三猿。二鷄。	
41	佐屋ノ元	〃 佐屋ノ元	〃	日・月。	一面四臂青面金剛。一蛇。三猿。二鷄。二鷄。	
42	平原	加礼川・平原	享保二十一年	日・月。	一面四臂青面金剛。一蛇。三猿。二鷄。祀主清助 庄兵衛	
43	桜ヶ谷	加礼川・桜ヶ谷	元禄十四年	日・月。	一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。	佐助他六名 石屋惣十良
44	台	加礼川・台	宝永 元年	日・月。	一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鷄。甚五郎 他四名	

62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
小谷	堂岸	寺山	倉ノ迫	一ノ払	岩ノ下	天念寺		小野丸		カゲノ木	前畑	宮ノ脇		梅遊寺	中ヲサキ	荒川庚申塔	中並石
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二	〃	二	〃	〃	〃	二	〃	〃	〃	〃
畑・小谷	古城・堂岸	本村・寺山	近広・倉ノ迫	長岩屋・一ノ払	長岩屋・岩ノ下	長岩屋・円重坊		長岩屋・小野丸		長岩屋・カゲノ木	松行・前畑	松行・宮ノ脇		一畑・畑カゲ平	一畑・中ヲサキ	加礼川・荒川	加礼川・中並石
天保十五年		享保二十一年	安永五年	天明四年	正徳二年	寛保二年	元禄十三年		延享三年			天保元年	元禄十四年	元禄十四年	元禄十四年	宝永元年	
日・月。一面六臂青面金剛。二邪鬼。二童子。二猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。シヨケテ。一邪鬼。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二邪鬼。二童子。三猿。二鶏。 <small>彦六 他八名</small>	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。一邪鬼。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二蛇。シヨケテ。一鶏。一猿。 <small>(烏帽子幣持)。金左衛門他数名。</small>	日・月。一面四臂青面金剛。一蛇。二猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二蛇。二鶏。三猿。	上部欠損。一面六臂青面金剛。二猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。四夜叉。二猿。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。シヨケテ。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。一蛇。二童子。一鶏。一猿。 <small>講 太左衛門 他十一名</small>	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。講中。敬白。	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。

63	産土神社	呉崎・町	弘化 四年	猿田彦大神(文・陰)。(背 面) 世話人 社平他七名
64	水ヶ迫	蔭・水ヶ迫	宝曆 五年	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。二鶏。一猿。
65	永迫	蔭・永迫	享保 八年	日・月。一面六臂青面金剛。二邪鬼。二蛇。二鶏。三猿。石工 忠石衛門
66	小豆田平	蔭・小豆田平	寛政十三年	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。二鶏。三猿。
67	堀口	蔭・堀口	享保十八年	日・月。一面六臂青面金剛。一鶏。一猿(幣持)。
68	宮ノ谷	蔭・宮ノ谷	元文 五年	日・月。一面六臂青面金剛。シヨケラ。一邪鬼。二童子。一鶏。 一猿。六左衛門他六名・石工忠衛門
69	富貴寺	蔭・坊	宝永 四年 享保十五年	奉敬礼青面金剛二世安楽所(文・墨書) 日・月。一面四臂青面金剛。二鶏。三猿。講中。
70	山門	蔭・山門	享保 三年	奉敬待庚申三[註]二世安楽杖(文・陰)
71	野添	蔭・野添	享保 六年	奉請青面金剛二世安楽杖。[案]門院他五名(文・陰)
72	熊野社	蔭・陽平	安永 四年	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。二鶏。二猿。七兵衛 他六名
73	カジャ林	池部・カジャ林	慶安 五年	青面金剛尊塔 柏木文次郎 永松平蔵(文・陰)
74	カジャ林	池部・カジャ林	寛文十一年	奉合修祀御庚申施主心中二世安楽所(文・陰)
75	カジャ林	池部・カジャ林	寛文十一年	奉供養庚申二世安楽所同行三拾式人(文・陰)
76	カジャ林	池部・カジャ林	寛文 七年	經行林中勸永仏道 青面金剛者降伏 邪鬼 右意趣者庚申[](文・陰)
77	カジャ林	池部・カジャ林	延宝 四年	奉[]念青面金剛二世安楽所願主新左衛門他六名(文・陰)
78	カジャ林	池部・カジャ林	明和 三年	日・月。一面六臂青面金剛。一邪鬼。二童子。一鶏。一猿(幣持)。
79	大平前	池部・大平前	明和 三年	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。二鶏。三猿。
80	大平前	池部・大平前	明和 三年	日・月。一面四臂青面金剛。二童子。二鶏。三猿。

98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
両田堂	園田		願寿寺			古代文化公園	草場	安養寺	長野	空木	米山	升淵庚甲塔			延寿寺		日ノ鶴
"	"	二	"	三	二	"	"	"	"	"	"		三	二	"	二	"
相原・堂ノ脇	相原・園田		真中・随願			真中・随願	真中・草場	真中・戸原	真中・長野	嶺崎・空木	嶺崎・米山	嶺崎・升淵			嶺崎・池ノ内		

天保 七年	明和 二年	慶応 三年	寛政 十年	享保 二年	正徳 二年	享保十三年	安永 二年	寛永 二年	宝暦 六年	明和 五年			天明 五年		寛政 二年		寛文 十年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--	--	-------	--	-------	--	-------

(梵字) 〇弥陀口口口口
 (文・陰) 〇奉待青面金剛童子。
 (風化) (文・陰) 弥陀 (梵字)
 日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。
 日・月。一面四臂青面金剛。二鶏。二猿。
 日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。
 日・月。一面六臂青面金剛。三猿。二鶏。
 日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。
 日・月。一面六臂青面金剛。三猿。二鶏。
 日・月。一面六臂青面金剛。一鶏。三猿。
 日・月。一面四臂青面金剛。三猿。二鶏。博行五人。
 奉建立石塔一字事為庚申御供養。神主右近 他十一名 (文・陰)
 日・月。一面四臂青面金剛。三猿。二鶏。博行五人。
 日・月。四蛇。二面六臂青面金剛。二童子。二鶏。三猿。四夜叉。
 字留嶋求女他八名。
 日・月。一面六臂青面金剛。一蛇。二鶏。三猿。四夜叉。
 日・月。一面四臂青面金剛。二鶏。三猿。施主村中 (折損)
 日・月。一面四臂青面金剛。二鶏。三猿。願主小畑六兵衛。
 日・月不明。一面六臂青面金剛。三猿。二鶏。小畑小平立之。(折損)
 日・月。一面四臂青面金剛。一蛇。二猿。二鶏。氏子中。
 日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。

113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99
早田	上ノ久保	登尺	無畑	二	橋本	観上軒	前	慈恩寺	高取	金福寺	中園	新涯	園田	小五郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
平野・早田	平野・上ノ久保	平野・登尺	平野・無畑		平野・橋本	平野・観上軒	平野・前	平野・観音堂	上野・高取	上野・ツルイ	相原・中園	相原・新涯	相原・園田	相原・小五郎
元文五年		宝曆十一年		寛永十二年	寛永元年		貞享二年	寛延四年		寛政元年	文化四年			
日・月。一面四臂青面金剛。二鶏。三猿。施主後藤庄右門	日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。二鶏。三猿。	日・月。一面六臂青面金剛。二猿。二鶏。	奉念御庚申一字如意祈所(文・陰)	奉住嚴庚申靈塔善宝安置支(文・陰)	日・月。一面六臂青面金剛。二鶏。三猿。	庚の文字剣を持つ一猿。慈恩達彫建之。	日・月。一面四臂青面金剛。二猿。三鶏。(背面)置之国土豊饒助力村中	(風化)刻像不明(青面金剛。猿。鶏カ)	日・月。一面六臂青面金剛。三猿。二鶏。施主藤左衛門乙藏	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。	(風化)刻像。文字不明。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。二鶏。	日・月。一面六臂青面金剛。二童子。三猿。二鶏。

(昭和五十三年八月五日現在)

庚申塔考察

右に庚申塔の所在地、年号、刻像等について掲げたので集約的に見ることにしよう。

佐伯 毛利藩史料について

橋 本 操 六

昭和五十年四月、旧佐伯藩主毛利氏の子孫である毛利高棟氏（一四代高範の次男）が、佐伯藩史料を佐伯市に寄贈された。文化遺産の散失が相次いでいる最近、誠に時宜を得た快挙である。心から謝意を述べたい。

この史料を調査する機会を与えられ、目録の作成に当たることが、目録の印刷部数に限度があり、なかなか入手し難いとのことであるので、本誌上を借りその一端を紹介することにした。

一、調査結果

調査で注目された事項をあげて結果にかえると、次のようになる。

(一) 藩で最も嚴重に保管されなければならない朱印状、領地目録、藩主に関する位記、口宣案等は、今回の調査物件中

最悪の保存状況であった。正文はほとんどなく写が中心であることは別にしても、湿損が著るしくまた包紙の紛失など、考えられない状況が明白になった。

反面、写であるにせよ四代將軍家綱以後十四代家茂までの朱印状（七代家継欠）が遺っていること。毛利家三代高尚以後十三代高謙に至るまでの位記、口宣案が紛失部分があるにせよまとまっていたことは幸であった。

(二) 大名間の交際関係文書は、一件書類ごとにまとめられ、多いものは十数通が一つの包紙中に整理され、嚴重に粘貼りされた。多分江戸時代末期に整理されたものと推察される。全般的に最もよい保存状況であった。他の一紙ものもほぼ同様な状態であった。

(三) 簿冊類では、特別貴重史料として既に江戸末期頃に補修裏打ちされたもの一九〇冊が注目される。毛利氏の佐伯入部の時期決定に係る重要な史料が多い。特に海部地方の検地帳や指出帳のほか、生産物の改帳、水夫高帳などの基本史料や、天領日田玖珠両郡の代官として毛利高政が関係した名寄帳、物成帳、知行目録等は、歴史の空白を埋める貴重なものである。分類記号もスペシャルSを付して顕彰し

二、年号別分布

寛永三・慶安一・寛文三・延宝一・貞享一・元禄七・宝永三・正徳二・享保十一・元文三・寛保二・延享一・寛延一・宝暦五・明和六・安永四・天明三・寛政七・文化二・文政三・天保三・弘化一・嘉永一・慶応一・明治一 計七六基。

三、田染地区文字庚申塔

仏の里の中心地だけに文字庚申塔十四基の内、国東半島最古の寛永元年の橋本庚申塔には「右八切勲當生戌辰相隆善根現世安穩」の銘があり、寛永二年の安養寺庚申塔には「右意趣者信心施主息災延命子孫繁昌家内安全・武運長久寿福誓現当二世諸願成就所敬白」の銘があり、寛永十二年の橋本庚申塔には「願以功德普及於一切我等与衆生皆共成仏道」、慶安五年のカジヤ林庚申塔に「十方三世一切諸菩薩・八方諸靈敬稱阿弥陀」と仏関連の銘があり、弥陀三尊・不動・薬師・大日の梵字が刻まれ庚申信仰が仏教と結びついていたことを示している。

四、造塔願主の人数

一覽表に現れているように一人・二人・五人・六人・七人・八人・九人・十二人・十七人・約二十五人。三十二人と色々で講中・村中・氏子中で表したものもある。

五、石工名

東都甲43桜ヶ谷には惣十良、田染65永迫には忠右衛門、106前には慈恩達の名前が彫刻されているが大部分は名前を残していない。

六、塔構図の類似性

石工名はなくても、同人の彫刻か、その流れを受継いだ者の彫刻と思われるものがある。東都甲47中ヲサキ

48 49 梅遊寺・45 中並石・40 大師堂・河内小田原 33 立道・34 ヤ子ノ迫・田染古代文化公園 92 94、美和 17 ミツケ。
河内森 23 貴船神社のものは地域的に接近している。

七、青面金剛臂数別基数

一面二臂一、一面四臂二八、一面六臂六〇、一面八臂一、

八、構図に現れたもの

蛇 河内 21。東都甲 41 42。西都甲 50 54 55 56 57。田染 65 97 92 94。

シヨケラ 高田 2。玉津 8。西都甲 51 56。草地 61。田染 68。

邪鬼 高田 2 6 7。玉津 8 9 14 16。河内 24 35。西都甲 57 58。草地 59 60 61 62。田染 64 65 68 79。

童子 高田 1 2 3 7。玉津 9 12 15 17 18。河内 22 23 24 25 26 27 28 30 31 33 34。東都甲 37 38 39 40 41 43 44 45 46 47 48 49。

西都甲 50 52 57 58。草地 59 60 61 62。田染 66 68 73 79 80 92 98 99 100 102 111。

猿 三猿 五六。二猿 一八。一猿 一〇。幣持 六。

鶏 二鶏 七六。一鶏 一四。

夜叉 四夜叉 四。二夜叉 二。

日・月 九一。

庚申講

市内百十三基の庚申塔で明治卅四年のものを除く殆どが寛永元年以降のもので、庶民信仰の一つとしての庚申信仰の盛んであったことが窺える。庚申塔の所在地に庚申講があったと思われるが、時代の流れは講の継続を困難にし現在迄存続しているものは少い。

田染地区では相原の西原部落五軒が年一回庚申講を開いている。今年は四月廿八日庚申の日に座元に午後七時半頃集って、庚申呪文を唱え会食、世間話をして午後十時頃散会したと河野了氏が話してくれた。

高田地区の水取部落で行われた講の掛軸が大聖寺に保管されている。巾約三十四纏、長さ約百四十二纏で一面六臂青面金剛が一邪鬼を踏み、一鶏と御幣持の一猿が描かれている。講が行われていないのは淋しいことだ。

河内部落の佐野丸山組は隣接の西川部落と合同して三十六軒で庚申講を行ったが現在では分れ十六軒になっている。年一回初庚申の日、くじ引で決定していた座元に午後六時頃集り、巾約二十五纏、長さ約七十七纏の掛軸にお参りし会食懇談を行い午後九時頃お開きにした。掛軸は煤けていて接近しないと分らないが、日月瑞雲、一面六臂青面金剛が一邪鬼を踏み、脇二童子・両方に二夜叉宛、二鶏、三猿が描かれている。講の経費は米二合と百円の持ち寄りで残り入費は座元負担である。膳部は四つ廻りで米二合のもつそうが必ず出されたが、最近では派手になり春秋二回の社日様の膳部よりもよく、座元負担が増し講中止の一原因となり、昨春秋の社日様の時に中止が決定され、本年から掛軸と「文久四年佐野邑文政利袋帳」・「明治廿三年上下番人名帖」・「明治廿三年元金借用帖氏子」の小帖面が一年間年番保管となっている。

玉津地区の田福・有安部落十軒で一年間六回庚申祭を行っていたが昭和十二年頃、物の少い時だから祭はやめようと申し合わせて行われなかったと筒井栄治氏が話してくれた。

筒井栄治氏の長男の嫁が東都甲加礼川・鶴から来ており、「鶴では六庚申と言って今でも庚申祭をやっていますよ。」と話してくれたので、鶴の末田藤作氏宅にお邪魔して息子家盛氏も同席で庚申講の話をして下され、本年二月二十七日中野久男氏宅、六月二十七日末田友晴氏宅の庚申講を見学させて戴いた。

講員は中野秀任・末田家盛・末田実保・中野久男・末田広・末田友晴・末田雅敏・末田博章氏等八名である。

昨年十月三十日末田家盛氏宅が座元を勤めたが、十二月二十九日は七回目の庚申日であったので講は行わず、本

年二月二十七日の初庚申の日に行った。一年間六回講を開くので六庚申と言っている。

座元は次の講まで巾四十一糎・長さ約百七十糎の日月瑞雲、一面六臂青面金剛が一邪鬼を踏まえ二童子が両側に、左右それぞれ二夜叉が立ち、二鶏、三猿を描いた掛軸を床の間に掛け毎日おがむ。庚申様にお供えする茶碗二個、皿二枚を納めた茶色の蓋付膳を保管する。

講当日座元は前座元宅から掛軸と四つ廻り膳を受取って帰り、床の間に掛軸を掛け、夕方までに奥さんの料理した御飯・御汁・お浸し・酢和の四つ廻りのお膳と御神酒をお供えする。従来四つ廻りより皿数を多くお供えする様である。

午後七時頃から講員は座元宅に集り、挨拶後お庚申様に拍手参拜を行う。掛軸は仏教系と思われる青面金剛尊に対し神仏習合の立場か講員末田博章氏祖父が神官を勤めており、お祭の時の祝詞奏上が行われた歴史があるので神道式の拍手参拜になっているのである。現在祝詞奏上も他の地方で唱えられる呪文も唱えられていない。講員が揃うと奥さんが心づくしに料理した膳につく。御神酒披露があり和やかに会食が行われる。座元夫妻は接待役である。以前は御神酒三合と四つ廻り膳だけであったが数年前から皿数も増して豪華な食膳になった。以前米五合と御神酒錢を講員持寄りであったが昭和五十年頃から御神酒錢だけとなり、料理費用は座元負担である。会食中や食後、ニュース、家族、家業の稲作の減反、茶、煙草、養蚕、乳牛飼育等の話や酒代値上による御神酒代値上げが協議される。平素から意志疎通が出来ているので実に和気あいあいとしている雰囲気である。

午後九時過ぎ話が一段落すると御神酒代三百円を集めて座元に手渡す。お庚申様に拍手参拜をして座元にお礼を述べてお開きとする。一月二日に初開きの会があり雑煮を頂いていたが各家庭のお客の為に数年前から中止された。昭和三十年頃六十年に一回行う餅撒きが中野秀任氏所有地にある三基の庚申塔の前で行われた。講員も餅撒きには一生に一度の巡り合せだという。

庚申様を中心に行っているが会食、懇談を主とし、機械化の進む農村の連帯感を深める役割を果しているようだ。

( 豊後高田市文化財保存会委員)